

塩崎厚生労働大臣クロージングコメント（仮訳）

日米韓保健大臣会合
バイデン副大統領がんムーンショットイニシアチブ

2016年9月19日
ロッテニューヨークパレスホテル

先ほどのセッションでも述べたが、統計上の数字の背景には、患者だけではなく、愛する人を失う家族や友人の数え切れない心の痛みと苦しみがある。我々は、彼らの声に耳を傾け、がんを克服するという不屈の闘志と決意を奮い起こさなければならない。

私は、新たな地平を開拓し、がんを克服するという大きな志を抱いておられるバイデン副大統領閣下に心から敬意を表したいと思う。

バイデン副大統領は、基礎研究から橋渡し研究、臨床研究、コンピュータ科学を含めたさまざまな領域から最高の研究者を動員し、がん治療へのアクセスを改善させるとともに、治癒へ向かう速度を倍加することの重要性を説いた。また、民間資源と公的資源を共に充実させ、がんとの闘いのために、いわゆる「縦割り」を廃して、全ての「がんとの闘士」が協働することを確かなものとした。これらの挑戦は、我々が知っているがんを撲滅するために不可欠な要素である。

我々は、プレジジョンメディシンや免疫療法を含む、がんの先端研究のため、新たなネットワークを立ち上げる予定である。このネットワークは、プロテオゲノムデータベースと質の高い臨床情報とを統合することで、がんの病因学や治療方法に関する価値の高い情報を提供していくものとなるだろう。

日本医療研究開発機構（AMED）の末松理事長や国立がん研究センター（NCC）の中釜理事長や間野所長もまたその重要性を繰り返し述べていた。

国境を越えたデータシェアリングは非常に重要である。特にプレジジョンメディシンを実現化するために必要な大量の情報を含むデータベースを一国で構築することは不可能である。我が国は、国内の様々な領域の最高の専門家の力を

結集し、データの標準化や基盤技術の開発をはじめとする共通の課題に取り組んでいく所存である。

会場の皆様、

私は、ここに集まった三か国が、それぞれの国の強みを結集することで、がんの研究開発を一層加速させ、現在我々が知るところのがんに終止符を打つことを目的としたがん撲滅ムーンショットイニシアチブの実行に貢献することができると思っています。

我々は、米国と韓国との更なる協力を通じて、患者と家族のため、そして将来の世代のために、がんとの戦いを加速することを決意した。